

藝園草牧



雪印種苗株式會社

畑作の主な雑草の図説 Ⅲ

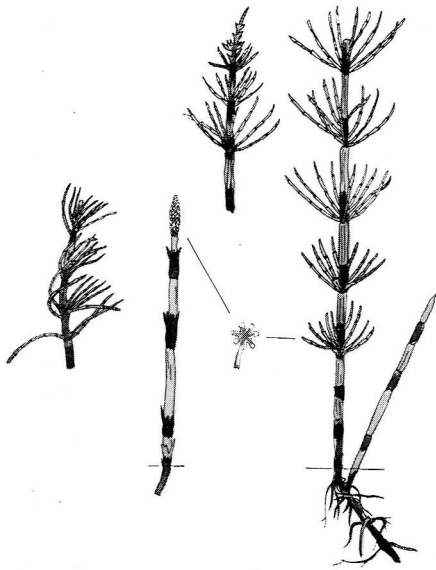
農林省農事試験場 荒井正雄(農博)

7. スギナ

わが国のいたるところの原野・路傍・空地・畑などにみられる多年生草本です。地下茎は非常に長く、地中を横にのび、暗褐色を呈し、節から地上茎をだします。また、ときには地下茎の節に細毛のある小塊をつけます。

地上茎には2種類があります。一つは孢子茎といい、ほかの一つは栄養茎といいます。栄養茎は、高さ30~40cmくらいで緑色の円柱形をなし、節から多数の分枝を輪生します。また、節には退化した葉からなる鞘をつけています。

孢子茎は、早春に栄養茎より早くできてきます。孢子茎は、普通ツクシまたはツクツクシといわれ、平滑軟質の円柱形で淡褐色をおび、高さ10~25cmくらいです。孢子茎の頂上に長楕円体の孢子穂をつけます。



スギナ

8. メヒシバ

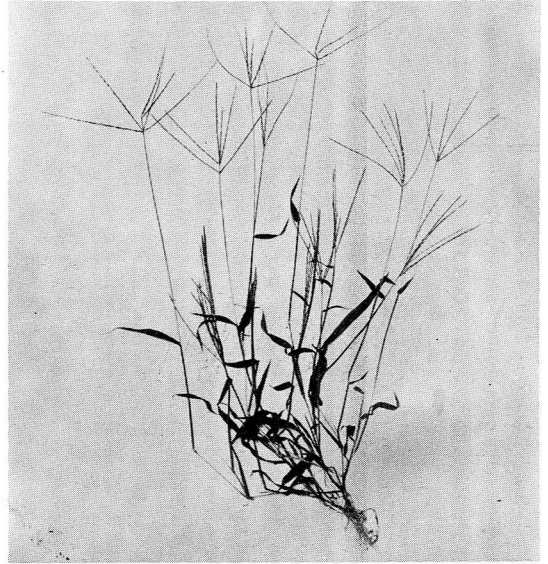
日本国内いたるところの畑・路傍・廢地などにはえる一年生草本です。その強力な繁殖力はあらゆる夏草を押し、暖地の畑夏作の優占種をなしています。

メヒシバは「雌日芝」を意味しており、日当りのよいところでよく生えます。早いものは4月ころからはえますが、発生の最盛期は5~6月ころです。

茎は、はじめ横にはって節から根を下し枝をだして繁殖します。枝は直立して高さが40~60cmくらいになります。

葉は互生し、葉鞘にはまばらに荒い毛があります。茎の先に数本の花穂を分枝してつけ、それに小さな花をつけます。

この草に似たものにアキメヒシバがあり、北海道では、アキメヒシバの方が多く生えます。これは小形で草丈は20~50cmくらいになり、葉・葉鞘・茎ともに赤紫色をおび、葉鞘には毛がありません。出穂はメヒシバよりおそく、秋に先だってから出穂します。



メヒシバ

9. エノキグサ

畑地や路傍などに生える一年生草本で、発生密度はかなり高い。

畑作では5月ころから生えはじめ、8~10月に高さ30cmくらいに生育して花をつけます。茎は細長く、直立して分枝し、葉は互生で長い卵形で、長い葉柄がついています。

葉腋から柄のついた花序を出し、雄花と雌花とは別になっています。



エノキグサ